

令和6年度
介護福祉実習 実習要項

～The School of Green Gables～



Ringling with heartfelt sound

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

目 次

岡山医療福祉専門学校 教育目的・方針

介護福祉学科 教育目的・目標

介護福祉学科 教育課程

介護福祉実習の概要

I 介護福祉実習の意義・目的・目標

II 介護福祉実習計画

III 介護福祉実習の内容

IV 介護福祉実習の流れ

介護福祉実習 全段階共通事項

実習諸注意

宿泊の心得

介護福祉実習 記録様式・評価表

教 育 目 的

岡山医療福祉専門学校は、学生の向上意欲を支援し、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師・社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事に必要な知識・技術・態度の修得に寄与し、他職種との連携のもとに一人ひとりが生きることによって幸せを感じられる社会づくりに貢献できる実践的な人材を育成することを目的とする。

教 育 方 針

1. 人間の尊厳について理解し、ノーマライゼーションの考え方や共生の精神を養う。
2. 社会の変貌に対応して看護師・社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事に求められる知識・技術の修得を図り、実践的な能力を養う。
3. 在宅での生活を支援する視点とその役割を理解し実践する能力を養う。
4. 生き生きとした楽しい学生生活のなかで、豊かな人間性を培うことができるよう支援する。
5. 専門職業人としての、目的意識をもって主体的に学べる環境を整える。

介護福祉学科教育目的

これからの総合保健・医療・福祉チームの一員として、地域福祉を発展させるために必要な豊かな人間性と専門性を修得した実践力のある介護福祉士を養成する。

介護福祉学科教育目標

1. 生命の尊厳と個々の人格が尊重できる、感性豊かな人間性を養う。
2. 介護に必要な基本的知識・技術・態度の修得を図り実践的な能力を養う。
3. 介護福祉士として、利用者とその家族との信頼関係を築くことができる能力を養う。
4. 利用者とその暮らしを理解し、利用者の自立と生活の質の向上を図るための支援ができる能力を養う。
5. 保健・医療・福祉チームの一員としてその役割を認識し、他職種との連携が図れ、協同できる能力を養う。
6. 研究的態度を養い、積極的に自己研鑽できる能力を養う。
7. 卒後教育を行い、生涯働き続けることを支援する。

介護福祉実習の概要

I 介護福祉実習の意義・目的・目標

介護福祉実習は、各教科目の講義や演習で得た知識・技術を現場での体験の中で一体化できる貴重な機会である。その経験を通して対象である老人や障害者の生き方や人生に共感し受容し、より良い人間的ふれあいの中で、個別的で望ましい介護を学ぶことができ、合わせて専門職としての自らの役割が認識できることにある。

- ① 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

- ② 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

VI 介護福祉学科32期生 教育課程

領域	教育内容	授 業 科 目 名	単 位	時 間	1年		2年		
					前期	後期	前期	後期	
人間と社会	人間の理解	人間の尊厳と自立	福祉倫理学	2	30	30			
		人間関係とコミュニケーション	人間関係論	4	60		30	30	
	社会の理解	社会の理解	家族・高齢者福祉学	2	30	30			
			社会福祉学	2	30			30	
	人間と社会に関する選択科目		介護管理	2	30			30	
			アクティビティ論	2	30	30			
			余暇活動援助法	2	30		30		
			情報科学	2	30	30			
	介護	介護の基本	介護福祉概論	4	60	30	30		
			介護援助論	4	60	30	30		
介護福祉実践論			4	60			60		
コミュニケーション技術		コミュニケーション援助法	2	30	30				
		コミュニケーションの実際	2	30		30			
生活支援技術		生活支援法	4	60	60				
		生活支援実践	4	60		60			
		生活支援技術演習	4	60	30		30		
		衣・食・住の実際	4	60	60				
		生活支援リハビリ	4	60			60		
介護過程		介護過程入門	2	30	30				
		介護過程演習	3	90			90		
		介護過程の実際	2	30				30	
介護総合演習		介護総合演習Ⅰ	1	30	30				
		介護総合演習Ⅱ	1	30		30			
		介護総合演習Ⅲ	2	60			60		
介護実習		介護実習Ⅰ	4	180	60	90	30		
		介護実習Ⅱ	6	270			270		
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	生涯発達論	2	30		30			
		高齢者の健康と障害	2	30			30		
	認知症の理解	老人医学	2	30	30				
		認知症援助法	2	30		30			
	障害の理解	障害者福祉論	2	30		30			
		障害者心理学	2	30			30		
	こころとからだのしくみ	臨床心理学	2	30			30		
		生活援助論	4	60	30	30			
医学概論		2	30	30					
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケア論	4	68			68		
		医療的ケア演習	1	30				30	
合 計 (介護福祉士コース)			100	1928	1020		908		
社会福祉主事専門科目	(選択制)	児童福祉論	2	30	30				
		地域福祉論	2	30	30				
		社会福祉援助技術演習	1	30		30			
		福祉事務所運営論	2	30	30				
		社会福祉施設経営論	4	60	30	30			
		法学	2	30		30			
		経済学	2	30	30				
		社会福祉現場実習	2	90		30	60		
		社会福祉現場実習指導	2	60		30	30		
		合 計 (社会福祉主事併修コース)			119	2318	1320		998

Ⅱ 介護福祉実習計画

■令和6年度(31・32期生)実習予定表

月 学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
第1学年 (32期生)	<p style="text-align: center;">↔ 見学実習 6/28</p> <p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅰ-①グループホーム 7/29～8/1</p> <p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅰ-②小規模多機能型居宅介護 9/24～9/27</p> <p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅰ-③特養・老健 11/5～11/14</p> <p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅰ-④障害 12/16～12/19</p>												
生活支援 技術	キ ン グ	ベ ッ ト メ ー	ニ ク ス	ボ デ イ メ カ	移 乗 移 動	車 イ ス 操 作	身 じ た く	食 事 介 助	口 腔 ケ ア	着 脱	入 浴 介 助	排 泄 介 助	お し め 交 換
第2学年 (31期生)	<p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅰ-⑤通所 5/27～5/30</p> <p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅱ-①特養・老健 6/3～6/21</p> <p style="text-align: center;">↔ 実習Ⅱ-②特養・老健 9/17～10/17</p>												
生活支援 技術	シ ー ツ 交 換	ト イ レ 介 助 (紙 パ ツ ト)	清 拭	足 浴	手 浴	応 用 技 術						技 術 試 験	

■令和6年度 介護福祉実習計画

学年	分類	実習内容	期間	時間	日数	小計 (時間)	合計 (時間)
第1学年 (32期生)	見学	高齢者施設	6/28	5	1	5	150
	I-①	グループホーム	7/29～8/1	7.5	4	30	
	I-②	小規模多機能居宅介護	9/24～9/27		4	30	
	I-③	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設	11/5～11/14		8	60	
	I-④	障害者	12/16～12/19		4	30	
第2学年 (31期生)	I-⑤	通所介護 通所リハビリ	5/27～5/30		4	30	300
	II-①	特別養護老人ホーム 老人保健施設	6/3～6/21	15	112.5		
	II-②	特別養護老人ホーム 老人保健施設	9/17～10/17	21	157.5		

*土日祝は原則休みとする。

Ⅲ 介護福祉実習の内容

◆ 実習Ⅰ 全体目標

様々な利用者や家族とのコミュニケーションを通じて地域で生活する利用者の状況と多様なサービスの特徴について理解する。

そして、その人らしい生活とはどのようなものか理解しながら、その生活の継続のために必要な個別ケアの重要性の理解を深める。

また、多職種と協働しながら生活を支援する介護福祉士の役割について理解を深め、利用者それぞれの状況・状態に応じた初歩的な生活支援技術の確認を行う。

見学実習 目標

目標；見学を通して、多種多様な介護サービスがあることを理解する。また利用者との関わりを通じて、利用者の日常生活を知り必要とされる支援内容を学ぶ。

実習Ⅰ－① グループホーム

目標；グループホームの役割を理解し、共同生活の中での利用者の役割の必要性を理解する。また、その人らしい生活を送る為にどのような生活支援が行われているかを学び、個別ケアの重要性を理解する。

実習Ⅰ－② 小規模多機能型居宅介護

目標；高齢者の生活の場は様々であることやその特徴の理解を深め、そこで生活する利用者の個別性を理解する。そして、利用者・家族との関わりを通じて人間関係を形成し、また、チームケアにおける他職種との協力や連携について学びを深める。

実習Ⅰ－③ 老人保健施設・特別養護老人ホーム

目標；コミュニケーションを通じて施設で生活される利用者やサービスの特徴を理解する。また、多職種との関わりの中で、その人らしい生活維持に必要な介護福祉士の役割を理解する事が出来る。

実習Ⅰ－④ 障害者

目標；様々な利用者との関わりから多様な考え方や価値観があることを知り、その人らしさを尊重しながら生活を支援していく事の重要性を学ぶ。

また、障害者の就労支援等に目を向けながら、地域社会で生活できるような自立支援のあり方について理解を深める。

実習Ⅰ－⑤ 通所介護・通所リハビリ

目標；地域で生活する高齢者とコミュニケーションを図りながら、そこで生活される利用者のその人らしさを見つける事ができる。また、通所サービスを理解し、どのような役割があるのか理解する。

※可能な限り送迎や家族との関り方などを体験する。

◆ 学習課題・内容

- 1) 実習施設の概要を理解する。
- 2) 職員の構成と職務内容を理解する。
- 3) 利用者とのコミュニケーション技術を学び、利用者の特性を理解する。
- 4) 生活のプログラム（日課・行事等）を理解する。
- 5) 基本的な日常生活支援を理解し、指導者の監督・指導のもとで、日課にそって日常生活支援の基本技術を学ぶ。
- 6) 利用者のQOL、生きがい、人権保障、社会参加の必要性などについて理解する。

◆ 実習Ⅱ 全体目標

利用者理解と適切な介護を展開するために介護過程の思考のプロセスを実践する。その中で利用者の生活背景やリズムを理解しながら個別ケアと自立支援の必要性を学び、介護計画に基づいた介護の実践・評価・修正ができる。

また、実習を通して専門的な生活支援技術を体験し、学びを深める

実習Ⅱ－① 老人保健施設 特別養護老人ホーム

目標；担当ケースとの関わりの中で介護過程の思考のプロセスを確認する。その中で情報収集・課題分析とアセスメントを実践し、その人らしさを見つけながら個々にあった介護計画が立案できる。

実習Ⅱ－② 老人保健施設 特別養護老人ホーム

目標；介護過程の一連を担当ケースとの関わりの中で実践しながら連続的なサイクルの重要性を理解する。そして個別ケアと自立支援の実際について理解を深め、介護の専門職としての役割を認識しながら適切な介護を計画に沿って実践することができる。また生活支援の意味について考え、自らの介護観につなげることができる。

◆ 学習課題・内容

- 1) ～6) 実習Ⅰに同じ
- 7) 職務内容および介護職員間でのチームケアを学ぶと同時に多職種の役割と連携のあり方を学び理解を深める。
※可能であればカンファレンスやサービス担当者会議に参加する。
- 8) 指導者の監督・指導のもとに、利用者1名を受け持ち、個別介護の必要性を理解し、利用者の需要を充足するための情報の収集・情報の分析をし、その個人の全体像を知る。そして介護計画立案・実践・評価の一連を学ぶ。
- 9) 早出・遅出勤務をどちらか1回以上、可能な範囲で体験する。
- 10) 介護に携わる人の健康管理のあり方について学びを深める。
- 11) 集団と個別のアクティビティ・サービスを計画・実施・評価する。
- 12) 終末期の介護について理解する（生と死に向き合う）。
- 13) 医療的ケアの見学を可能な範囲で行う。
- 14) 地域における施設の役割や地域交流について学び、その中で介護福祉士の役割を理解する。また、地域活動・連携に積極的に体験する。

※可能であれば、地域で開催される行事やイベントに参加する。

※実習Ⅱ－②においては、介護過程の展開の中で必要に応じて担当ケースの写真を撮ることの了承を得る。

IV 介護福祉実習の流れ

実習前

- ・**実習依頼（教務）**
実習開始1ヵ月前に実習生の人数・氏名・実習期間等の依頼文を施設に郵送します。※必要時（宿泊、施設食注文【別紙3】）
- ・**事前確認（学生）**
実習2週間前頃に学生が事前確認を電話にて行います。そこで確認した内容を実習事前確認書【別紙1】に記入し初日に持参します。

実習中

- ・**実習初日**
実習事前確認書【別紙1】、個人情報保護に関する誓約書【別紙2】、個人票【様式①】、【様式③】、事務所類（書類について、実習評価依頼、返信用封筒）を提出します。
- ・**毎日**
介護実習日誌【様式④】は翌日朝一番に提出します。
ミーティングは概ね実習終了時間30分前から実施します。
- ・**最終反省会の実施**（原則最終日）※実習Ⅱは中間反省会あり
- ・**実習最終日**
出席表【様式②】を提出します。
最終日の実習日誌は施設で書いて提出します。（片面のみ）
評価表は学生が自己評価を記入し提出します。

実習後

- ・実習ファイルを学校へ提出し、振り返りをする。
- ・施設へ礼状を出す。
- ・実習終了後、施設より評価表が返却される。

◆ 介護福祉実習 全段階共通事項

1. 健康面について

- 1) 学内健康診断を実施し、健康状態の確認を行ったうえで実習に出る。
- 2) 実習施設・実習内容により必要がある場合は実習開始前に検便を受ける。
(赤痢菌・サルモネラ属菌・腸チフス菌・パラチフス菌)
- 3) 介護実習Ⅰ(冬季の場合)の前にはインフルエンザの予防接種を受ける。
※それぞれ必要に応じて証明できるものを施設に提出する。
- 4) 感染対策
 - ・手洗い、手指消毒、マスク着用を徹底する。
※フェイスシールド・ゴーグル等の感染対策用品は必要に応じて準備する。
 - ・実習中は毎朝検温を行い、発熱がある場合や感染症(風邪等も含む)が疑われる場合は、必ず事前に教員・施設に報告し、指示に従う。
(判断に迷う場合も同様とする)
 - ・その他、施設より要望がある場合はその都度検討し対応する。

2. 記録物について

- 1) 実習日誌は、実習指導者の指示により毎朝リーダーが取りまとめ提出する。
その他の記録物は、随時速やかに提出する。
- 2) 記録物には黒ボールペンを使用し(消えるペンは不可)、楷書で正確に記入する。誤字には訂正印を押し、正しく書き直す。修正液・テープは不可。
- 3) 実習記録については、原則自宅において記入する(個人情報遵守)。

3. 毎日のミーティングについて

- 1) ミーティングは、学生同士の相互学習の場として毎日行い、日々の目標に対しての学びを学生が発表する。また、指導者より受けた指導・助言をグループで共有する。
- 2) ミーティングは、実習指導者より指定された時間(30分間以内)で行う。
- 3) 司会者・記録者を決め、有効に時間を活用する。
- 4) 可能な限り実習指導者の出席を依頼する。

4. 最終反省会について

- 1) 反省会は、学生個人が実習を振り返り、気づき・学びをまとめ発表することにより体験を共有するとともに、実習指導者より総合的に指導・助言を仰ぐ機会とする。
- 2) 実習指導者と担当教員により、時間・場所(会場の準備・片付けも含む)を設定する。会の進行は学生主体で行う。
- 3) 実習Ⅱにおいては中間反省会も実施する。1)に加え、介護過程の展開についても発表する。

5. 単位認定について

1) 評価は到達度評価とする。

相対評価（他の学生との比較での評価）ではなく、学生個人が実習目標に対してどの程度到達できたかを評価する。

2) 評価の根拠を評価内容の欄に記入する。

【評価基準】

優	実習要項に定める実習目標が8割以上達成できた。
良	実習要項に定める実習目標が7割以上達成できた。
可	実習要項に定める実習目標が6割以上達成できた。
不可	実習要項に定める実習目標の達成6割未満である。

※施設評価と学校評価と合わせて総合評価とする。

◆ 実習諸注意

1. 行動、立ち振る舞いについて

- 1) 実習は、必ず実習指導者の指示に従って行動すること。
- 2) 特に利用者の身体介護においては指導者の指示・確認を行ったうえで十分に注意しながら実践すること。実習場所を離れるとき、休憩に入るとき、および実習終了時は、必ず実習指導者に報告し、了解を得ること。
- 3) 職員・利用者をはじめ家族等外来者の方々に接した時は、挨拶を忘れないこと。

2. 実習時間について

- 1) 1日の実習時間は7.5時間とする。
- 2) 実習の開始・終了・休憩時間は各施設の指示による。
- 3) 欠席・遅刻・早退は、特別な理由のない限りしないこと。
- 4) やむを得ない場合は、電話により施設、学校、メンバーに必ず報告すること。
実習時間不足の場合は、指示により補充実習を原則行う。
- 5) 原則として病気欠席の場合は、診断書を学校に提出すること。

3. 服装・身だしなみについて

- 1) 指定の実習着・エプロン・白ソックス・シューズを着用すること。
排泄用エプロンは必要に応じ学校が貸し出すこととする。
- 2) 頭髮は、前に垂れ下がることのないよう清潔に、簡素にまとめること。色は学校が認めた範囲のものとする。長い髪は1つに束ねる。
- 3) 化粧は清楚に、爪は短く切ること。マニキュア・ペティキュア、カラーコンタクトは認めない。
- 4) 装身具（ネックレス・指輪・ピアス・腕時計・サングラス等）は着用しない。

4. 実習態度について

- 1) 目標を意識し定められた日課を意欲的に実行し、実習効果をあげるよう努力すること。積極的に自ら学ぶ態度でのぞむこと。
- 2) メモ帳を常備し、必要な事柄は適所を考えてメモしておくこと。
- 3) 実習中は私的な電話（携帯を含む）は絶対に慎むこと。
- 4) 施設の職員および施設利用者・家族等外来者には礼儀正しく接すること。
- 5) 実習中の無駄話（特に実習生同士）は絶対慎むこと。
- 6) 実習中知り得た施設の諸事情または利用者の個人情報、みだりに他言しないこと（プライバシーの保持）。
また、記録物を必要に応じてコピー等を行う場合は学校・施設以外では行わないこと。個人情報の扱いには最善の注意を払うこと。
- 7) 実習中は、タバコや酒は厳重に禁止する。〈本校は禁煙校です。〉
- 8) 実習指導者または学校が実習にふさわしくないと判断した場合、実習を中止させることがある。

5. 昼食について

- 1) 基本的には弁当を持参する。必要に応じて施設食を注文する。施設食を注文した場合は、最終日に料金を各自で支払う。
- 2) 弁当の保管については指導者の指示を仰ぎ、季節によっては冷蔵庫を借りるなど施設側に相談すること。
- 3) 指定された時間、場所で行う。
- 4) 買い物には出ないこと。

6. その他

- 1) 実習施設までの交通手段は、原則として公共交通機関を利用すること。
(交通費は自己負担とする) やむを得ない場合は自家用車・バイクの使用の届を提出し許可を得ること。
- 2) 健康被保険者証の写しを携帯すること。
- 3) 実習期間中はアルバイトをしないこと。
- 4) 携帯電話は実習中には持ち歩かないこと。
- 5) 休憩時間も実習中であるという意識を持ち行動すること。
- 6) 個人情報の取り扱いには十分注意すること。

◆ 宿泊の心得

- 1) 各自洗面用具・寝衣・着替え等身の回り品を持参すること。
- 2) 宿泊部屋・更衣室・ロッカー等の清掃・整頓は毎日行うこと。
特にトイレ・浴室の掃除は当番を決め、毎日行うこと。
- 3) 実習終了後、施設を去る時は、清掃の点検（宿泊部屋・更衣室・ロッカー・トイレ・浴室等）をするとともに、忘れ物などないよう再確認すること。
- 4) 宿泊中は、周囲に迷惑をかける行動をしないこと。
- 5) 宿泊中困ることがある場合においては、施設指導者または教員に相談すること。
- 6) 宿泊中は原則、外出しないこと。
- 7) 施設の備品（洗濯機、電子レンジ、冷蔵庫等）を使用する場合は、取扱いに注意すること。

介護福祉実習 記録様式

- 別紙 1 実習事前確認書
- 別紙 2 個人情報保護に関する誓約書
- 別紙 3 宿泊・施設食の申込一覧表

- 様式① 個人票
- 様式② 出欠表
- 様式③ 実習が始まる前に
- 様式④ 介護実習日誌
- 様式⑤ 実習施設概要
- 様式⑥ 実習を終えてのまとめ
- 様式⑦ 介護過程展開シート（項目 1～5-2）
- 様式⑧ 課題分析ワークシート（項目 5-1）
- 様式⑨ 個別援助計画表
- 様式⑩ アクティビティ・サービス計画表

- 評価表Ⅰ - ① ～ ⑤
- 評価表Ⅱ - ① ～ ②

実習種別 〈 ー 〉

実習事前確認書

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科 ____年生 第 ____期生

実習期間	年 月 日 () ~ 月 日 ()			
実習施設名	法人名 : 施設名 :			
住所	〒 Tel () -			
施設長		実習 指導者		巡回 教員
実習メンバー <input checked="" type="checkbox"/> リーダー	<input checked="" type="checkbox"/>	住所		
住所 丁目・番地不要	<input type="checkbox"/>	住所	<p>※実習開始 2 週間前を目途に、学生が 指導者様に電話で事前確認を行う</p> <p>※実習初日に指導者様へ提出</p>	
交通手段	<input type="checkbox"/>	住所		
自宅から施設 (駅/バス停/所要時間)	<input type="checkbox"/>	住所		
	<input type="checkbox"/>	住所		
時間	実習時間 :	時 分 ~	時 分	
	休憩時間 :	時 分 ~	時 分	[場所 :]
	ミーティング :	時 分 ~	時 分	[場所 :]
必要物品 (持参物)	エプロン (食事用 ・ 排泄用) 持参の必要があれば○を付ける			
事前学習				
施設の使用	学生入口 :	駐輪場 :		
	下足場所 :	更衣室 :		
駐車場 (学生用)	<input type="checkbox"/> 有 ____台使用 駐車場所 ____ <input type="checkbox"/> 無 (不可)			
宿泊	<input type="checkbox"/> 行う 月 日 ~ 月 日 (泊) <input type="checkbox"/> 行わない (不可) ※宿泊場所 () ※初日訪問時 : 担当者 () 時間 () 場所 ()			
食事注文	<input type="checkbox"/> 行う 月 日 ~ 月 日 (日間) <input type="checkbox"/> 行わない (不可) ※ ____日前注文 【朝 ____円 昼 ____円 夕 ____円】 ・支払方法 ____			
備考				

個人情報保護に関する誓約書

私は、貴施設で実習を行うにあたり、実習上知り得た利用者個人に関する情報および貴施設の規則や職員等に関する情報を実習中はもちろん実習後においても、第三者に漏らしたり貴施設に無断で使用したりしません。

これらの事を誠実に厳守することを誓います。

※実習初日にリーダーがとりまとめて指導者様に提出、学生への返却不要

- * 情報収集で知りえた情報等を他学生や家族等へ流出しない
- * 記録物や資料の管理には細心の注意をはらう
- * 事例研究等に必要な写真などの使用は利用者・家族・職員・施設の許可をとる

令和 年 月 日

学校法人 ベル学園

岡山医療福祉専門学校

介護福祉学科

実習生氏名

印

宿泊・施設食（弁当）の申し込み一覧表

別紙3

実習施設： 岡山医療福祉専門学校 ・ 実習期間：令和 年 月 日（ ）～ 年 月 日（ ）

月 日	① 5/30 (日)											
	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕
実習生氏名	宿泊											
② 岡山ペル子	③	○										
	④	○										
一日計	⑤	1										
月 日												
実習生氏名	宿泊											
一日計												

※宿泊で実習する場合、施設食を注文する場合には使用する
 ※実習2週間前を目途に、施設へ郵送またはFAXする
 ※宿泊費は学校負担、食費は学生負担とする
 ① 該当の日付を記入
 ② 学生氏名を記入
 ③ 食事を注文する場合に○をつける（朝・昼・夜の該当箇所）
 ④ 宿泊する場合に○をつける

個人票

様式①

		学籍番号	介 - -		
写 真	ふりがな				
	氏 名	年齢(歳)			
	現住所	※個人情報保護の関係で番地等は省略しております			
	出身国(県)				
健康状態 内服薬等					
趣味・特技 PR・その他					
実 習 施 設 ・ 期 間	I-①	施設名			
	(グループホーム)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-②	施設名			
	(小規模多機能)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-③	施設名			
	(特養・老健)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-④	施設名			
	(障害者)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-⑤	施設名			
	(通所)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	II-①	施設名			
	(特養・老健)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
II-②	施設名				
(特養・老健)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)	

この票に記入する事柄(住所、氏名、自己紹介等)は実習指導を受けるために、実習施設に提供する個人情報です。

初日に提出⇒当日、学生へ返却

実習が始まる前に

様式③

氏名		実習指導者	印	担当教員	印
実習段階	I -	実習施設			
【実習 I 全体目標】		<p>* 実習に臨むにあたって、事前に学内で作成する。</p> <p>【 目的 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習指導者に実習のイメージを伝え、適切な指導を受けるため 2. 学生が実習目的や達成方法を見失わないため 3. 実習における成果を自己評価するためのものさしとして活用するため <p>【 内容と記述方法 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校が定める実習全体目標を記入 ② 学校が定める各種別実習目標を記入 ③ 学校が定める各実習段階の課題・内容を記入 <p>※①②③は実習要項より抜粋</p> <ol style="list-style-type: none"> ④ 実習全体目標を達成するための具体的行動、実習内容を学生本人が文章化して記入 ⑤ 各種別実習目標を達成するための具体的行動、実習内容を学生本人が文章化して記入 ⑥ 今回の実習で挑戦・克服・改善したいことを学生が自分の課題や特徴をふまえて記入 ⑦ 実習指導者が学生の特徴の確認として学生の自己PR・意気込みを記入 <p>実習指導者様が押印(実習登録者以外も可)</p> <p>【 提出方法 】</p> <p>グループリーダーがメンバーの用紙をとりまとめ、実習初日朝一番に実習指導者に提出</p>			
①					
.....					
.....					
.....					
【実習 I - () 目標】					
②					
.....					
.....					
.....					
【実習課題・内容】 ③					
1)					
.....					
3)					
.....					
4)					
.....					
5)					
.....					
6)					
.....					
【実習 I 全体目標に対しての具体策】					
④					
.....					
.....					
【実習 I - () 目標に対しての】					
⑤					
.....					
.....					
【今回の実習で挑戦・克服・改善したい】					
⑥					
.....					
.....					
【自己PR・意気込み】					
⑦					
.....					
.....					

実習が始まる前に

様式③

氏名		実習指導者	印	担当教員	印
実習段階	Ⅱ -	実習施設			
【実習Ⅱ 全体目標】	<p>* 実習に臨むにあたって、事前に学内で作成する。</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習指導者に実習のイメージを伝え、適切な指導を受けるため 2. 学生が実習目的や達成方法を見失わないため 3. 実習における成果を自己評価するためのものさしとして活用するため <p>【内容と記述方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校が定める実習全体目標を記入 ② 学校が定める各種別実習目標を記入 ③ 学校が定める各実習段階の課題・内容を記入 <p>※①②は実習要項より抜粋</p> <ol style="list-style-type: none"> ③は実習要項から学生が選び記入 ④ 実習全体目標を達成するための具体的行動、実習内容を学生本人が文章化して記入 ⑤ 各種別実習目標を達成するための具体的行動、実習内容を学生本人が文章化して記入 ⑥ 今回の実習で挑戦・克服・改善したいことを学生が自分の課題や特徴をふまえて記入 ⑦ 実習指導者が学生の特徴の確認として学生の自己PR・意気込みを記入 <p>実習指導者様が押印(実習登録者以外も可)</p> <p>【提出方法】</p> <p>グループリーダーがメンバーの用紙をとりまとめ、実習初日朝一番に実習指導者に提出</p>				
①					
【実習Ⅱ - () 目標】	<p>②</p>				
②					
【実習課題・内容】	<p>③</p>				
③					
【実習Ⅰ 全体目標に対しての具体策】	<p>④</p>				
④					
【実習Ⅰ - () 目標に対しての】	<p>⑤</p>				
⑤					
【今回の実習で挑戦・克服・改善したいこと】	<p>⑥</p>				
⑥					
【自己PR・意気込み】	<p>⑦</p>				
⑦					

介護実習日誌

実習施設名 ()

月 日 () (実習 日目)		実習生氏名	
配属先 ①		実習指導 職員印 ②	実習指導 教員印
本日の目標 ③ ① ②			
時間	実習項目	実習内容	学び及び指導内容
④ 12:00	⑤ 配膳・食事介助	⑥ K氏の食事介助(見守り)	⑦ 食事形態は利用者ごとに異なっていて、疾患や嚥下の状態に合わせて、健康面や安全性を考えた様々な形態があることが分かった。
13:00	休憩		
14:00	コミュニケーション	S氏との会話(天気・昼食等)	利用者とのコミュニケーションを凶ったが傾眠気味で会話が弾まなかった。昼食後はゆっくりしたい利用者もいるので声掛けに迷ったが昼夜逆転の利用者には、しっかり覚醒してもらう必要があることが分かった。
14:30	入浴介助	H氏の着脱介助・洗髪	目標①に関係するため裏面に記入
<p>※日誌は毎日自宅で記入、翌日朝に指導者に提出する</p> <p>① 配属部署やユニット、フロアを記入</p> <p>② その日に担当した職員・指導者様が押印(特に指定なし)</p> <p>③ 1日に2つ目標を設定する。具体的な目標にする。</p> <p>④⑤ 時間経過に沿って、学生が実施した実習項目を記入</p> <p>⑥ ⑤に記入した項目に対して、具体的な実施内容を記入</p> <p>⑦ ③であげた目標以外の学びや、職員様からの指導や助言、利用者様や職員様との関わりなどから感じたことを記入する。(目標についての学びは裏面に記入)</p> <p>*根拠を合わせて記入</p>			

経過と評価・考察

①

① 表面に記入した2つの目標に対して取り組んだ「経過・評価・考察」を記入する。

* 5W1Hを意識し、時系列で記入

* 利用者様の氏名はイニシャルで書く

* 誤字・脱字は二重線で消し、訂正印を押す

→ 訂正印が1枚につき4つ以上になると全部書き直す

② 目標以外に考察したい体験や学びがある場合は記入する

③ 指導者様にコメントを記入してもらう

コメントを記入された職員・指導者様がサイン（特に指定なし）

※原則、記録は最後の行まで記入

②

指導者コメント ③

指導者サイン ()

実習施設概要

様式⑤

	学籍番号	介 - -	氏 名	
名称	法人名: 施設名:			
所在地				
施設長名				
施設理念				
定員	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>※実習前に各自で調べ、わかる範囲で記入 わからなところを実習中に確認する</p> <p>①施設で実際に利用者様に提供されている支援内容を具体的に記入</p> <p>②基本的な利用者様の生活の流れを24時間で記入</p> <p>③施設の年間・月間行事、クラブ活動などを記入 施設で力を入れて取り組んでいる内容や建物の特色などについても記入</p> <p>④実習最終日までに実習指導者に提出し、確認印をもらう(登録指導者以外も可)</p> </div>			
職員配置 状況 (職種・人数等)				
支援内容				
利用者の 生活の流れ	②	-----		
行事 特色等	③			
	実習指導者印	④	教員印	

実習を終えてのまとめ

様式⑥

学籍番号	介 - -	氏名	
------	-------	----	--

実習を終えて

「実習が始まる前に(様式③)」であげた目標に対して、
実習目標はどこまで達成されたか、実習を終えるにあたり今後の課題は何かを明確にする。

【 実習を終えて 】

事前にあげた実習目標がどの程度達成できたか、出来なかったのはなぜか、実習の達成課題状況を整理し、実習の成果を明確にする。

また、利用者、職員と関わる中で感じたこと、学んだこと、実習現場で印象に残った事例や指導を含め実習を振り返る。

【 今後の課題 】

今回の実習を通して、自身の課題を明確にし、今後の学習や自己覚知につなげていく。

【 提出方法 】

最終日にリーダーがまとめて指導者に提出する。

実習終了までに指導者に捺印をいただく。

今後の課題

実習指導者 印

実習指導教員 印

介護過程展開情報シート

1【プロフィール】

氏名

1	氏名 A 氏	男 <input checked="" type="radio"/> 女 <input type="radio"/>	年齢: 90 歳代 (前半・後半)
			入所期間: 1 年 8 ヶ月
2	介護の経過(入所までの経緯) 夫が他界した81歳の頃、アルツハイマー型認知症と診断された。週2回の訪問介護と通所介護を利用しながら自宅で一人暮らしを続けていたが、頻繁に自転車で徘徊を繰り返し、8年前交通事故にあい入院。退院後、長女の自宅近くの有料老人ホームに入所したが、物忘れや物事を理解することが難しくなり、他入所者とのトラブルが増えた。徘徊により行方不明になったこともあり対応が困難となったため退所。徐々に下肢筋力も低下してきており特別養護老人ホームへ入居となる。		家族関係図(ジェノグラム) ※図で記入する 入所前の同居家族を囲む
3	要介護状態区分: 要介護3 (認定: 令和4年3月)		
4	認知症高齢者の日常生活自立度: IIIa		
5	障害高齢者の日常生活自立度: B1		

2-1【健康状態/心身機能・身体構造】

1	身体機能の状態 平常時バイタルサイン 体温: 35.8℃~36.5℃ 脈拍: 64~74回 血圧: 116/82mmHg 身長: 148cm 体重: 47.6kg	既往歴・現病歴・服薬状況(副作用含) 既往歴: 脳梗塞(2013年) 現病歴: アルツハイマー型認知症 (2014年) 6 脂質異常症 (2015年) ⇒ 脂質異常症治療薬 副作用 (発疹・かゆみ、腹痛) 便秘 (2018年) ⇒ 便秘治療薬 副作用 (高マグネシウム血症) ※疾患名(年) ⇒ 治療薬(副作用) という書き方で書く
2	精神機能の状態	
3	認知機能の状態 ・アルツハイマー型認知症により物忘れがあり物事の理解が難しい	
4	感覚機能の状態 右耳がやや難聴(補聴器なし)	
5	言語機能の状態	
7	その他・特記事項 (介護上の留意点) <div style="border: 2px solid red; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 収集した利用者情報をどこの欄に書けばよいかわからない場合は、該当すると思われる欄に記録する。 (複数個所でも可) </div>	

2-2【活動(ADLを中心とした行為)】

1	<p>ADL: ① 寝返り (可能) 手すりにつかまれば可能・不可能) ② 食事 (自立 一部介助・全介助)</p> <p>起き上がり (自立・一部介助・全介助) ③ 排泄 (自立 一部介助・全介助)</p> <p>座位 (自立 一部介助・全介助) ④ 入浴 (自立 一部介助・全介助)</p> <p>立ち上がり (自立 一部介助) ⑤ 移動 (自立 一部介助・全介助)</p> <p>移乗 (自立 一部介助・全介助)</p> <p>移動 (自立 一部介助・全介助)</p> <p>すべての項目において該当するものをそれぞれ○で囲む</p>						
2	現在の状況						
① 移動・移乗	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 481 861 526">している活動(実行状況)</th> <th data-bbox="861 481 1109 526">できる活動(能力)</th> <th data-bbox="1109 481 1484 526">本人の思い(言葉)・しぐさ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 526 861 828"> <p>・車イス使用 車イスへの移乗は不安定の為見守りが必要 自操可能</p> <p>・一人で介助なく目的場所まで移動するが、方向転換時に時間がかかり見守り必要。(9/15、観察より)</p> <p>・自分の部屋やトイレの場所がわからなくなり迷って廊下で止まってしまうことがある。(9/18、観察より)</p> </td> <td data-bbox="861 526 1109 828"> <p>手すりがあれば歩行できるが、下肢筋力低下によりふらつきがあるため、日常的には車イスで移動</p> </td> <td data-bbox="1109 526 1484 828"> <p>「身体は元気でもポケて困る」と発言あり(9/22、本人より)</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>現在は行っていないが条件などがあればできる能力などを記入</p>	している活動(実行状況)	できる活動(能力)	本人の思い(言葉)・しぐさ	<p>・車イス使用 車イスへの移乗は不安定の為見守りが必要 自操可能</p> <p>・一人で介助なく目的場所まで移動するが、方向転換時に時間がかかり見守り必要。(9/15、観察より)</p> <p>・自分の部屋やトイレの場所がわからなくなり迷って廊下で止まってしまうことがある。(9/18、観察より)</p>	<p>手すりがあれば歩行できるが、下肢筋力低下によりふらつきがあるため、日常的には車イスで移動</p>	<p>「身体は元気でもポケて困る」と発言あり(9/22、本人より)</p>
している活動(実行状況)	できる活動(能力)	本人の思い(言葉)・しぐさ					
<p>・車イス使用 車イスへの移乗は不安定の為見守りが必要 自操可能</p> <p>・一人で介助なく目的場所まで移動するが、方向転換時に時間がかかり見守り必要。(9/15、観察より)</p> <p>・自分の部屋やトイレの場所がわからなくなり迷って廊下で止まってしまうことがある。(9/18、観察より)</p>	<p>手すりがあれば歩行できるが、下肢筋力低下によりふらつきがあるため、日常的には車イスで移動</p>	<p>「身体は元気でもポケて困る」と発言あり(9/22、本人より)</p>					
② 食事	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 828 861 1052">食事形態: 主食・副食: 普通食 (義歯が合わず硬い物は刻むことがある)</th> <th data-bbox="861 828 1109 1052">食事形態: 主食・副食: 普通食 (義歯が合わず硬い物は刻むことがある)</th> <th data-bbox="1109 828 1484 1052">本人の思い(言葉)・しぐさ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 828 861 1052"> <p>摂取量: 主食10割、副食7割 甘いもの、果物が好物。 ※使用食器、自助具、食事場所、エプロン有無、水分摂取量、カロリー摂取量、嚥下状態、食事制限など</p> </td> <td data-bbox="861 828 1109 1052"></td> <td data-bbox="1109 828 1484 1052"> <p>好き嫌いはない。なんでも食べる。(9/30、本人より)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	食事形態: 主食・副食: 普通食 (義歯が合わず硬い物は刻むことがある)	食事形態: 主食・副食: 普通食 (義歯が合わず硬い物は刻むことがある)	本人の思い(言葉)・しぐさ	<p>摂取量: 主食10割、副食7割 甘いもの、果物が好物。 ※使用食器、自助具、食事場所、エプロン有無、水分摂取量、カロリー摂取量、嚥下状態、食事制限など</p>		<p>好き嫌いはない。なんでも食べる。(9/30、本人より)</p>
食事形態: 主食・副食: 普通食 (義歯が合わず硬い物は刻むことがある)	食事形態: 主食・副食: 普通食 (義歯が合わず硬い物は刻むことがある)	本人の思い(言葉)・しぐさ					
<p>摂取量: 主食10割、副食7割 甘いもの、果物が好物。 ※使用食器、自助具、食事場所、エプロン有無、水分摂取量、カロリー摂取量、嚥下状態、食事制限など</p>		<p>好き嫌いはない。なんでも食べる。(9/30、本人より)</p>					
③ 排泄	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1052 861 1276">得た情報には、その日付と情報源(観察、本人、記録物、他職種など)を付記する。</th> <th data-bbox="861 1052 1109 1276"></th> <th data-bbox="1109 1052 1484 1276">利用者の発言内容など(思い、望み、要求)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1052 861 1276"> <p>尿意はあり、日中は1時間おき、夜間は3~4回様式トイレにて排泄をしているが、失禁があるために紙パンツを使用。 ※便意、便秘の有無、尿量、後始末など</p> </td> <td data-bbox="861 1052 1109 1276"></td> <td data-bbox="1109 1052 1484 1276"> <p>失敗することはないと思っている。(10/1、職員より)</p> </td> </tr> </tbody> </table>	得た情報には、その日付と情報源(観察、本人、記録物、他職種など)を付記する。		利用者の発言内容など(思い、望み、要求)	<p>尿意はあり、日中は1時間おき、夜間は3~4回様式トイレにて排泄をしているが、失禁があるために紙パンツを使用。 ※便意、便秘の有無、尿量、後始末など</p>		<p>失敗することはないと思っている。(10/1、職員より)</p>
得た情報には、その日付と情報源(観察、本人、記録物、他職種など)を付記する。		利用者の発言内容など(思い、望み、要求)					
<p>尿意はあり、日中は1時間おき、夜間は3~4回様式トイレにて排泄をしているが、失禁があるために紙パンツを使用。 ※便意、便秘の有無、尿量、後始末など</p>		<p>失敗することはないと思っている。(10/1、職員より)</p>					
④ 入浴	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1276 861 1500">週4回(月・水・金・日)シャワー浴。シャワーチェアに座り、大まかに自分で身体を洗うことができるが、洗い残しは職員が介助している。 ※入浴の種類、介助の必要な部分、好きな湯温、入浴時間など</th> <th data-bbox="861 1276 1109 1500">上衣の着脱動作は可能</th> <th data-bbox="1109 1276 1484 1500">お風呂は気持ちがよいから好き。(9/29、本人より)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1276 861 1500"></td> <td data-bbox="861 1276 1109 1500"></td> <td data-bbox="1109 1276 1484 1500"></td> </tr> </tbody> </table>	週4回(月・水・金・日)シャワー浴。シャワーチェアに座り、大まかに自分で身体を洗うことができるが、洗い残しは職員が介助している。 ※入浴の種類、介助の必要な部分、好きな湯温、入浴時間など	上衣の着脱動作は可能	お風呂は気持ちがよいから好き。(9/29、本人より)			
週4回(月・水・金・日)シャワー浴。シャワーチェアに座り、大まかに自分で身体を洗うことができるが、洗い残しは職員が介助している。 ※入浴の種類、介助の必要な部分、好きな湯温、入浴時間など	上衣の着脱動作は可能	お風呂は気持ちがよいから好き。(9/29、本人より)					
⑤ 更衣・整容	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1500 861 1702">更衣はできるが、服の上から服を重ねて着ることが頻繁にあり、そのつど職員が声かけを行い自分で着替えなおす。(10/2、観察より)</th> <th data-bbox="861 1500 1109 1702">上衣の着脱動作は可能</th> <th data-bbox="1109 1500 1484 1702">若いときはよく洋服を買っておしゃれをすることが好きだった。(9/26、本人より)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1500 861 1702"></td> <td data-bbox="861 1500 1109 1702"></td> <td data-bbox="1109 1500 1484 1702"></td> </tr> </tbody> </table>	更衣はできるが、服の上から服を重ねて着ることが頻繁にあり、そのつど職員が声かけを行い自分で着替えなおす。(10/2、観察より)	上衣の着脱動作は可能	若いときはよく洋服を買っておしゃれをすることが好きだった。(9/26、本人より)			
更衣はできるが、服の上から服を重ねて着ることが頻繁にあり、そのつど職員が声かけを行い自分で着替えなおす。(10/2、観察より)	上衣の着脱動作は可能	若いときはよく洋服を買っておしゃれをすることが好きだった。(9/26、本人より)					
⑥ 睡眠	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1702 861 1848">夜間に1~2回トイレに起きてくるが、朝6時ごろまで良眠している。 ※睡眠時間、コールの有無など</th> <th data-bbox="861 1702 1109 1848"></th> <th data-bbox="1109 1702 1484 1848">寝起きがすっきりしているのでよく眠れたと思っている。(10/3、職員より)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1702 861 1848"></td> <td data-bbox="861 1702 1109 1848"></td> <td data-bbox="1109 1702 1484 1848"></td> </tr> </tbody> </table>	夜間に1~2回トイレに起きてくるが、朝6時ごろまで良眠している。 ※睡眠時間、コールの有無など		寝起きがすっきりしているのでよく眠れたと思っている。(10/3、職員より)			
夜間に1~2回トイレに起きてくるが、朝6時ごろまで良眠している。 ※睡眠時間、コールの有無など		寝起きがすっきりしているのでよく眠れたと思っている。(10/3、職員より)					
⑦ コミュニケーション	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="199 1848 861 2069">だれにでも気軽に話しかけるが、同じ話を5~10分おきに繰り返して話すことがある。(9/18、観察より) 9/19、9/21、9/28</th> <th data-bbox="861 1848 1109 2069">複数回にわたり情報を得た場合はそ</th> <th data-bbox="1109 1848 1484 2069">話をするのが好き。世話好きだったので、みんなでおしゃべりするの楽しい。(9/30、本人より)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="199 1848 861 2069"> <p>右耳は聞こえにくい、少し大き目の声であら問題なく聞こえている。</p> </td> <td data-bbox="861 1848 1109 2069"></td> <td data-bbox="1109 1848 1484 2069"></td> </tr> </tbody> </table>	だれにでも気軽に話しかけるが、同じ話を5~10分おきに繰り返して話すことがある。(9/18、観察より) 9/19、9/21、9/28	複数回にわたり情報を得た場合はそ	話をするのが好き。世話好きだったので、みんなでおしゃべりするの楽しい。(9/30、本人より)	<p>右耳は聞こえにくい、少し大き目の声であら問題なく聞こえている。</p>		
だれにでも気軽に話しかけるが、同じ話を5~10分おきに繰り返して話すことがある。(9/18、観察より) 9/19、9/21、9/28	複数回にわたり情報を得た場合はそ	話をするのが好き。世話好きだったので、みんなでおしゃべりするの楽しい。(9/30、本人より)					
<p>右耳は聞こえにくい、少し大き目の声であら問題なく聞こえている。</p>							

2-3【参加(社会との関係性)】

1	現在の状況		
	している活動(実行状況)	できる活動(能力)	本人の思い(言葉)・しぐさ
他者との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも気軽に話しかける。 ・他利用者と一緒に洗濯物たたみをする。 ・他利用者にアドバイスをしたり手助けをしたりする。 		話をするのが好き。世話好きだったので、みんなでおしゃべりするのが楽しい。 (9/30、本人より)
役割	掃除や洗濯物たたみ、調理の手伝いなど「やろうか」「手伝おうか」と他の入居者と一緒に協力しながら行っている。(9/17、観察より) 9/20、9/25、9/29		できることは手伝わないと申し訳ないと思っている。 (10/3、本人より)
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビの歌番組や宝塚のミュージカルを好む。一緒に歌ったり踊ったりする。(9/29、観察より) ・折り紙や縫物など手先が器用で集中して行っている。(10/2、観察より) 		小学校の先生をしていたので、音楽や体育は得意。 (10/2、本人より)
リハビリ	現在は行っていない		「1人ではなかなかできない」と発言あり
その他			

2-4【環境因子】

	現在の状況	本人の思い(言葉)・しぐさ
家族関係	※家族(具体的な続柄)との関係性を記入。面会の頻度、現在や過去の関	「娘に会いたい」「家に帰りたい」との発言があり
生活用具	※車イスや杖などの福祉用具だけではなく、こだわり・愛着・愛用等を記入	軽い車いすを希望している
生活環境・居室の見取り図	バリアフリー構造で手すりが設置してある。 居室は個室で、ベッド、たんす、机など本人のなじみの家具が置いてある。トイレや洗面所、風呂は共同。 ※フロア状況、居室内のレイアウトなど図も入れる	私はどこにいるのか分からないとの発言あり (1回/週程度) フロアで他の利用者から注意を受けることがある (洗濯物の畳み方が違うなど)
その他		

2-5【個人因子】

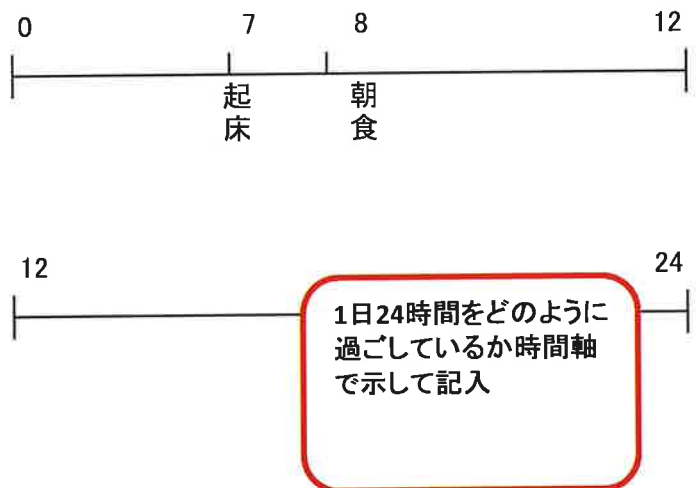
生活歴	※要介護状態となる前の生活歴を記載する	
	現在の状況	本人の思い(言葉)・しぐさ
趣味	※現在と過去は分けて記入。過去の趣味は年月を記入	
性格	おだやかで優しい。困っている人がいるとアドバイスしたり手助けをするが、他者からの強い口調には落ち込むことがある。	
習慣	※現在と過去は分けて記入。過去の習慣は年代等を記入	
その他		

3. 利用者像(イメージ画)

※利用者の特徴をとらえた絵を描くとわかりやすい。

※バイタルサイン、身長・体重、聴力・視力、麻痺状態、コミュニケーション能力、認知状態などを記入してもよい。

4. 現在の生活状況



5-2. 利用者本人にとっての課題分析(別紙5-1. 課題分析ワークシートより抜粋)

◎快適の視点

日中はフロアで他入居者や職員と楽しそうに交流しているが、洗濯物たたみができなかつたり、同じ話を繰り返したりすると、ほかの入居者から注意されることがある。アルツハイマー型認知症のため、物忘れや理解力の低下がみられることが原因だと考えられる。この状態が続くと、ほかの入居者との交流の機会が減少し、意欲も低下する恐れがある。他入居者との交流も継続して行え、意欲的な生活ができることが望まれる。そのためには、できていることと、できていないことを見極め、できていないことに関する支援を行う。形状が複雑な衣類は職員と一緒にたたむ、簡単なタオルたたみなどは見守るなどの支援をすることが求められる。

利用者の情報をもとに、根拠を示しながら筋道を立てて記述する。

情報の分析・解釈・統合及び文章作成においては、様式⑧「課題分析ワークシート」を活用する。

5-1. 課題分析ワークシート

(生活機能と関係性がありそうなものは?)
アルツハイマー型認知症

健康状態	文章の構成要素	現在の状況 (生活するうえでの 支障は?)	原因・理由 (その原因・理は?)	今後、予想される結果 (その状態が続くと どうなる?)	望ましい状態 (望ましい状態は?)	必要な支援 (そのために 必要な支援は?)	留意すること (その際の留意点は?)
生活機能の構成要素	アセスメントの視点	「現在〇〇の状態である」	「それは△△が原因だと 考えられる」	「この状態が続くと◇◇に なる恐れがある」	「□□になるためには」	「××を××する必要がある」	「その際は▽▽に留意す ることが求められる」
心身機能 身体構造	安全						
活動	安全						
参加	自立						
心身機能 身体構造	安全	日中はプロアで他人居者や職員と楽しもうに交流したり、洗濯物たたり、同じ話をする、他の入居者から注意されることがある	アルツハイマー型認知症のため、物忘れや理解力の低下がみられることが原因だと考えられる	この状態が続くと、ほかの入居者との交流の機会が減少し、意欲も低下する恐れがある	他人居者との交流も継続して行え、意欲的な生活ができる	できていることとできていないことを見極め、得意なことに関する支援を行う	形状が複雑な衣類は職員と一緒にたたむ、簡単なタオルたたみなどは見守る
活動	快適						
参加	自立						

該当するアセスメントの視点を○
で囲む

上段のパターンに
合わせて情報
シートより必要な

課題としてとりあげた項目をまるで囲み
優先順位1位の方を計画に移行する。

左端のマスから右端のマスの文章をつなげることに
より
筋道立てた課題分析ができる。※様式⑦5-2へ記入

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

他の入居者との関係性

個人因子

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

他人が困っているとアドバイスしたり手助けをする

個別援助計画表 (Ⅱ-①②)

No()

様式⑨

利用者氏名		性別		学 籍 番 号		氏 名	
生年月日		年代		介		-	
T・S		短期目標		長期目標			
生活課題		支援計画		実 施			
優先度		【洗濯物たたみ】		評価			
1	<p>日中はフロアで他入居者や職員と楽しそうに交流しているが、洗濯物たたみができなかったり、同じ話を繰り返したりすると、ほかの入居者から注意されることがある。アルツハイマー型認知症のため、物忘れや理解力の低下がみられることが原因だと考えられる。この状態が続くと、ほかの入居者との交流の機会が減少し、意欲も低下する恐れがある。他入居者との交流も継続して行え、意欲的な生活ができることが望まれる。そのためには、できていないこと、できていないことを見極め、できていないことに関する支援を</p>	<p>サポートを受けながらできることは自分です</p>	<p>①10月3日 16:10~16:30 フロアで他利用者と交流中のA氏に声をかけ、洗濯物たたみを実施する。 A氏にはタオルをお願いし、職員と他利用者で衣類をたたむ。 A氏は「みんなだけでたむと楽しいね」と笑顔で話す。終始なごやかな雰囲気です。たたみ終えることができる。</p>	<p>洗濯物たたみは毎日繰り返し行うことにより、徐々に手順がわかってくるようになった。また、昔手な衣類もあるようだが、職員や他利用者と一緒に洗濯物たたみを行うことにより、少ずつ要領がわかってくるようになり、自分で工夫しながらたたみ終える意欲がみられるようになった。 A氏には「人の役に立ちたい」という思いがあるため、その思いに寄り添いA氏の能力に応じた支援を見極めることにより「できる力」の維持につながる。たのではないかと考えられる。</p>	<p>短期目標に対して結果がどうであったかを評価する。 また、計画の内容が適切であったか、改善すべき点はないか等も評価する。 基本的にはすべての実施内容に対して総合的に評価をするが、計画の内容によっては実施ごとに評価をしてもよい。その場合</p>		
<p>5W1Hを意識して誰が見てもわかるように書く。 必要物品や留意点等も必要に応じて書く。</p>		<p>実施回数(①など)、日付、時間を記載し、その時の様子を事実のみ書く。 実施回数が多い場合は、点線右欄にも書いてよい。</p>		<p>すべてシャーペン書き</p>			

アクティビティ・サービス計画表【実習 - 】

実習施設名：

学生氏名：

プログラム名：	
実施日：	実施場所：
実施時間：	対象者：
(目標)	
プログラム内容 (流れ)	
(スタッフの役割・留意点等)	
時間	
	< 例 >
14:00	挨拶 (本日の流れを説明) 自己紹介 (各自スケッチブックを使用)
	総合司会：●● 全体にスケッチブックが見えるように、動きながら自己紹介する。時折利用者に質問をし、やりとりしながらすすめる。
14:10	展開1) 手遊び (イワシの開き) ①内容・動きの説明 (2回) ②デモンストレーション ③実践1回 (ゆっくりと) ④実践1回 (はやく)
	司会：△△ フォロー：●● 模造紙に歌詞と魚の絵を準備し、魚部分はめくられるようにする。
レイアウト	必要物品/経費等
※図を書くとうわかりやすい	
参加者 (人数 名)	
自己評価	
職員コメント	
実習指導者 印 担当教員 印	

※実習開始後早めに指導者に相談・確認し、記入して提出する。必要に応じ修正しながら完成させる。

*参加された職員にコメントと押印をもらう。

実習種別 ()

実習事前確認書

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科 年 生 第 期 生

実習期間	年 月 日 () ~ 月 日 ()			
実習施設名	法人名 : 施設名 :			
住所	〒 Tel ()			
施設長		実習 指導者		巡回 教員
実習メンバー <input checked="" type="checkbox"/> リーダー	<input checked="" type="checkbox"/>	住所		
住所 丁目・番地不要	<input type="checkbox"/>	住所		
交通手段 自宅から施設 (駅/バス停/所要時間)	<input type="checkbox"/>	住所		
	<input type="checkbox"/>	住所		
	<input type="checkbox"/>	住所		
時間	実習時間 :	時 分 ~ 時 分		
	休憩時間 :	時 分 ~ 時 分	[場所 :]	
	ミーティング :	時 分 ~ 時 分	[場所 :]	
必要物品 (持参物)	エプロン (食事用 ・ 排泄用) 持参の必要があれば○を付ける			
事前学習				
施設の使用	学生入口 :	駐輪場 :		
	下足場所 :	更衣室 :		
駐車場 (学生用)	<input type="checkbox"/> 有 _____台使用 駐車場所 _____ <input type="checkbox"/> 無 (不可)			
宿泊	<input type="checkbox"/> 行う 月 日 ~ 月 日 (泊) <input type="checkbox"/> 行わない (不可) ※宿泊場所 () ※初日訪問時 : 担当者 () 時間 () 場所 ()			
食事注文	<input type="checkbox"/> 行う 月 日 ~ 月 日 (日間) <input type="checkbox"/> 行わない (不可) ※ _____日前注文 【朝 _____円 昼 _____円 夕 _____円】 ・支払方法 _____			
備考				

個人情報保護に関する誓約書

私は、貴施設で実習を行うにあたり、実習上知り得た利用者個人に関する情報および貴施設の規則や職員等に関する情報を実習中はもちろん実習後においても、第三者に漏らしたり貴施設に無断で使用したりしません。

これらの事を誠実に厳守することを誓います。

令和 年 月 日

学校法人 ベル学園

岡山医療福祉専門学校

介護福祉学科

実習生氏名

印

宿泊・施設食（弁当）の申し込み一覧表

実習施設： 実習期間：令和 年 年 月 日（ ）～ 月 日（ ）

月 日	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕	朝	昼	夕
実習生氏名	宿泊			宿泊			宿泊			宿泊			宿泊		
一日計															
実習生氏名	宿泊			宿泊			宿泊			宿泊			宿泊		
一日計															

個人票

様式①

		学籍番号	介 - -		
写 真	ふりがな				
	氏 名	年齢(歳)			
	現住所	※個人情報保護の関係で番地等は省略しております			
	出身国(県)				
健康状態 内服薬等					
趣味・特技 PR・その他					
実 習 施 設 ・ 期 間	I-①	施設名			
	(グループホーム)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-②	施設名			
	(小規模多機能)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-③	施設名			
	(特養・老健)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-④	施設名			
	(障害者)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	I-⑤	施設名			
	(通所)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
	II-①	施設名			
	(特養・老健)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)
II-②	施設名				
(特養・老健)	期間	令和 年 月 日	～	令和 年 月 日(日間)	

実習が始まる前に

様式③

氏名		実習指導者	印	担当教員	印
実習段階	I -	実習施設			
<p>【実習 I 全体目標】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>					
<p>【実習 I 一 () 目標】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>					
<p>【実習課題・内容】</p> <p>1)</p> <p style="padding-left: 100px;">2)</p> <p>3)</p> <p>4)</p> <p>5)</p> <p>.....</p> <p>6)</p>					
<p>【実習 I 全体目標に対しての具体策】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>					
<p>【実習 I 一 () 目標に対しての具体策】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>					
<p>【今回の実習で挑戦・克服・改善したいこと】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>					
<p>【自己PR・意気込み】</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>					

介護実習日誌

実習施設名 ()

月 日 () (実習 日目)		実習生氏名			
配属先		実習指導 職員印		実習指導 教員印	
本日の目標 ① ②					
時間	実習項目	実習内容	学び及び指導内容		

経過と評価・考察

指導者コメント

指導者サイン ()

実習施設概要

	学籍番号	介 - -	氏 名	
	実習期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
名称	法人名 施設名			
所在地				
施設長名				
施設理念				
定員				
職員配置 状況 (職種・人数等)				
支援内容				
利用者の 生活の流れ	-----			
行事 特色等				
	実習指導者印		教員印	

介護過程展開情報シート

1【プロフィール】

氏名		A 氏		氏名	
1	氏名	男・女	年齢	歳代 (前半・後半)	
	介護の経過(入所までの経緯)		入所期間	年	ヶ月
2			家族関係図(シエングラム)		
3	要介護状態区分:		6		
4	認知症高齢者の日常生活自立度:		キーバージョン:		
5	障害高齢者の日常生活自立度:				

2-1【健康状態/心身機能・身体構造】

既往歴・現病歴・服薬状況(副作用含)			
1	身体機能の状態	6	
2	精神機能の状態		
3	認知機能の状態		
4	感覚機能の状態		
5	言語機能の状態		
7	その他・特記事項 (介護上の留意点)		

2-2【活動(ADLを中心とした行為)】

ADL:		① 寝返り (可能・手すりにつかまれば可能・不可能)		② 食事 (自立・一部介助・全介助)	
		起き上がり (自立・一部介助・全介助)		③ 排泄 (自立・一部介助・全介助)	
		座位 (自立・一部介助・全介助)		④ 入浴 (自立・一部介助・全介助)	
		立ち上がり (自立・一部介助・全介助)		⑤ 更衣・整容(自立・一部介助・全介助)	
		移乗 (自立・一部介助・全介助)			
		移動 (自立・一部介助・全介助)			
		現在の状況			
		している活動(実行状況)		できる活動(能力)	
		本人の思い(言葉)・しぐさ			
1					
2					
① 移動・移乗					
② 食事					
③ 排泄					
④ 入浴					
⑤ 更衣・整容					
⑥ 睡眠					
コミュニケーション					

2-3【参加(社会との関係性)】

1	現在の状況		本人の思い(言葉)・しぐさ
	している活動(実行状況)	できる活動(能力)	
他者との交流			
役割			
余暇活動			
リハビリ			
その他			

2-5【個人因子】

生活歴	現在の状況		本人の思い(言葉)・しぐさ
趣味			
性格			
習慣			
その他			

3. 利用者像(イメージ画)

4. 現在の生活状況

0 _____ 12

12 _____ 24

2-4【環境因子】

	現在の状況		本人の思い(言葉)・しぐさ
家族関係			
生活用具			
生活環境・居室の取組み図			
その他			

5-2. 利用者本人にとっての課題分析(別紙5-1. 課題分析ワークシートより抜粋)

5-1. 課題分析ワークシート

学籍番号

氏名

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

健康状態	(生活機能と関係性がありそうなものは?)						
	現在の状況 (生活するうえでの 支障は?)	原因・理由 (その原因・理は?)	今後、予想される結果 (その状態が続くと どうなる?)	望ましい状態 (望ましい状態は?)	必要な支援 (そのために 必要な支援は?)	留意すること (その際の留意点は?)	
文章の構成要素 生活機能の構成要素 アセスメントの視点 心身機能 身体構造 活動 参加 安全 快適 自立 心身機能 身体構造 活動 参加 安全 快適 自立	「現在の〇〇の状態である」	「それは△△が原因だと考えられる」	「この状態が続くと◇◇になる恐れがある」	「□□になるためには」	「××を必要とする必要がある」	「その際は▽▽に留意することが求められる」	

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

環境因子	個人因子
------	------

5-1. 課題分析ワークシート

学籍番号

氏名

健康状態

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

文章の構成要素	現在の状況 (生活するうえで 支障は?)	原因・理由 (その原因・理は?)	今後、予想される結果 (その状態が 続くかどうか?)	望ましい状態 (望ましい状態は?)	必要な支援 (そのために 必要な支援は?)	留意すること (その際の留意 点は?)	アセスメントの観点		
							安全	快適	自立
生活機能の構成要素									
心身機能 身体構造									
活動									
参加									

環境因子

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

個人因子

(生活機能と関係性がありそうなものは?)

アクティビティ・サービス計画表【実習 - 】

実習施設名：

学生氏名：

プログラム名：										
実施日：	実施場所：									
実施時間：	対象者：									
(目標)										
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>プログラム内容（流れ）</th> <th>(スタッフの役割・留意点等)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レイアウト</td> <td></td> <td>必要物品/経費等</td> </tr> </tbody> </table>			プログラム内容（流れ）	(スタッフの役割・留意点等)	時間			レイアウト		必要物品/経費等
	プログラム内容（流れ）	(スタッフの役割・留意点等)								
時間										
レイアウト		必要物品/経費等								
参加者（人数 名）										
自己評価										
職員コメント										
<p style="text-align: right;"> 実習指導者 印 担当教員 印 </p>										

介護福祉実習 I - ① 評価表

【 グループホーム 】

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号				
実習期間	自 令和	年	月	日 ()	学生氏名	
	至 令和	年	月	日 ()		
評価項目		評価内容			自己評価	施設評価
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。			①	②
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。				
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。				
	協調性	※実習最終日に、学生が自己評価をした後に提出 ※実習目標と照らし合わせて指導者様が評価、学校へ返送 ①学生が1～5で評価記入 ②指導者様が1～5で評価記入 ③総合的な所見を指導者様が記入 ④本校に登録されている指導者様のご署名・捺印 ⑤指導者様が実習目標に対して最終的な評価を「優・良・可・不可」のいずれかに○をつける				
	TPO					
専門分野	実習に関する記録・報告	※実習最終日に、学生が自己評価をした後に提出 ※実習目標と照らし合わせて指導者様が評価、学校へ返送 ①学生が1～5で評価記入 ②指導者様が1～5で評価記入 ③総合的な所見を指導者様が記入 ④本校に登録されている指導者様のご署名・捺印 ⑤指導者様が実習目標に対して最終的な評価を「優・良・可・不可」のいずれかに○をつける				
	施設理解					
	利用者理解	利用者との関わりから多様な考え方や価値観を知る。 利用者が地域社会で生活できる支援を学ぶ。 様々なコミュニケーション手段や生活支援方法があることを知る。				
	生活支援技術	認知症の症状を理解し、状況に応じた生活支援技術が実践できる。 (コミュニケーション・生活支援を含む)				
評価基準		5 : 大変良い 4 : 良い 3 : 普通 2 : いま少し 1 : 努力が必要				
総合所見						
③						
実習指導者氏名		④ 印			⑤ 総合評価	
					(優) ・ 良 ・ 可 ・ 不可	

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。

介護福祉実習 I - ② 評価表

【 小規模多機能型居宅介護 】

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号		
実習期間	自 令和 年 月 日 () 至 令和 年 月 日 ()	学生氏名		
評価項目	評価内容	自己評価	施設評価	
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。		
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。		
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。 学生らしい態度で指導や助言を受けることができる。		
	協調性	チームワークを考えて行動することができる。 介護職の役割や重要性を学ぶ姿勢が見られる。		
	TPO	その場の状況を判断し、その状況に応じた行動が出来る。		
専門分野	実習に関する記録・報告	文字は誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる。 適切な表現方法で、簡潔に記録を書くことができる。 記録物の提出方法、期限が厳守できる。 適切な報告ができる。		
	施設理解	施設の機能・役割を学び、理解することができる。		
	利用者理解	居宅生活において、利用者の生活の多様性を理解する。 利用者の地域社会とのつながりや関わりについて学ぶ。		
	生活支援技術	初歩的な生活支援技術の実践ができ、利用者の状況に応じた支援技術が実践できる。 (コミュニケーション・生活支援を含む)		
評価基準 5：大変良い 4：良い 3：普通 2：いま少し 1：努力が必要				
総合所見				
実習指導者氏名		印	総合評価 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可	

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。

介護福祉実習 I - ③ 評価表

【 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設 】

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号		
実習期間	自 令和 年 月 日 () 至 令和 年 月 日 ()	学生氏名		
評価項目	評価内容	自己評価	施設評価	
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。		
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。		
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。 学生らしい態度で指導や助言を受けることができる。		
	協調性	チームワークを考えて行動することができる。 介護職の役割や重要性を学ぶ姿勢が見られる。		
	TPO	その場の状況を判断し、その状況に応じた行動が出来る。		
専門分野	実習に関する記録・報告	文字は誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる。 適切な表現方法で、簡潔に記録を書くことができる。 記録物の提出方法、期限が厳守できる。 適切な報告ができる。		
	施設理解	施設の機能・役割を学び、理解することができる。		
	利用者理解	利用者の暮らしの場を知り、思いに触れることができる。 利用者及び家族とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。		
	生活支援技術	多くの利用者と接する機会を持ち、利用者の日常生活を知り、必要とされる基本的な介護が理解できる。		
評価基準 5：大変良い 4：良い 3：普通 2：いま少し 1：努力が必要				
総合所見				
実習指導者氏名		印	総合評価 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可	

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。

介護福祉実習 I - ④ 評価表

【 障がい者支援施設 】

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号		
実習期間	自 令和 年 月 日 () 至 令和 年 月 日 ()	学生氏名		
評価項目	評価内容	自己評価	施設評価	
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。		
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。		
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。 学生らしい態度で指導や助言を受けることができる。		
	協調性	チームワークを考えて行動することができる。 介護職の役割や重要性を学ぶ姿勢が見られる。		
	TPO	その場の状況を判断し、その状況に応じた行動が出来る。		
専門分野	実習に関する記録・報告	文字は誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる。 適切な表現方法で、簡潔に記録を書くことができる。 記録物の提出方法、期限が厳守できる。 適切な報告ができる。		
	施設理解	施設の機能・役割を学び、理解することができる。		
	利用者理解	利用者の意向、適正、障害の特性を理解する。 利用者の特性に合わせたコミュニケーションを行うことができる。 チームケアにおける協力や連携の必要性を理解する。		
	生活支援技術	初歩的な生活支援技術の実践ができる。 利用者の能力を引出し、自立を支える視点で接することができる。		
評価基準 5 : 大変良い 4 : 良い 3 : 普通 2 : いま少し 1 : 努力が必要				
総合所見				
実習指導者氏名	印	総合評価		
		優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可		

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。

介護福祉実習 I - ⑤ 評価表

【 通所介護・通所リハビリテーション 】

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号				
実習期間	自 令和	年	月	日 ()	学生氏名	
	至 令和	年	月	日 ()		
評価項目		評価内容			自己評価	施設評価
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。				
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。				
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。 学生らしい態度で指導や助言を受けることができる。				
	協調性	チームワークを考えて行動することができる。 介護職の役割や重要性を学ぶ姿勢が見られる。				
	TPO	その場の状況を判断し、その状況に応じた行動が出来る。				
専門分野	実習に関する記録・報告	文字は誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる。 適切な表現方法で、簡潔に記録を書くことができる。 記録物の提出方法、期限が厳守できる。 適切な報告ができる。				
	施設理解	施設の機能・役割を学び、理解することができる。				
	利用者理解	利用者の様々な暮らしの場を理解する。 利用者及び家族とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。				
	生活支援技術	利用者の自立に配慮し、安全・安楽な援助を行うことができる。 初歩的な生活支援技術の実践ができる。				
評価基準 5：大変良い 4：良い 3：普通 2：いま少し 1：努力が必要						
総合所見						
実習指導者氏名		印			総合評価	
					優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可	

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。

介護福祉実習Ⅱ－① 評価表

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号		
実習期間	自 令和 年 月 日 () 至 令和 年 月 日 ()	学生氏名		
評価項目	評価内容	自己評価	施設評価	
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。		
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。		
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。 学生らしい態度で指導や助言を受けることができる。		
	協調性	チームワークを考えて行動することができる。 介護職の役割や重要性を学ぶ姿勢が見られる。		
	TPO	その場の状況を判断し、その状況に応じた行動が出来る。		
専門分野	実習に関する記録・報告	文字は誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる。 適切な表現方法で、簡潔に記録を書くことができる。 記録物の提出方法、期限が厳守できる。 適切な報告ができる。		
	介護過程	利用者との自発的な関わりの中から必要な情報を収集することができる。 情報を整理して、何が必要かアセスメントできる。 その人らしさを見つけ、個々に合った介護計画が立案できる。		
	生活支援技術	実践を通して生活支援技術のポイントが理解できる。 利用者の状態に合った技術が実践できる。 安全・安楽や自立支援を意識して実践できる。		
	利用者理解	状況に合わせて様々な方法で関わるすることができる。 利用者の言葉や会話内容を受け止め、自分の気持ちを伝えることができる。		
評価基準 5：大変良い 4：良い 3：普通 2：いま少し 1：努力が必要				
総合所見				
実習指導者氏名	印	総合評価		
		優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可		

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。

介護福祉実習Ⅱ－② 評価表

岡山医療福祉専門学校 介護福祉学科

実習施設名		学籍番号		
実習期間	自 令和 年 月 日 () 至 令和 年 月 日 ()	学生氏名		
評価項目	評価内容	自己評価	施設評価	
基本分野	礼儀	服装や言葉づかい、挨拶などが適切にできる。 規則・時間を守ることができる。		
	倫理性	利用者のプライバシーへの配慮ができる。 専門職としての倫理（守秘義務）を守ることができる。		
	主体性	積極的に質問・行動し、実習に取り組むことができる。 学生らしい態度で指導や助言を受けることができる。		
	協調性	チームワークを考えて行動することができる。 介護職の役割や重要性を学ぶ姿勢が見られる。		
	TPO	その場の状況を判断し、その状況に応じた行動が出来る。		
専門分野	実習に関する記録・報告	文字は誤字脱字がなく、丁寧に書くことができる。 適切な表現方法で、簡潔に記録を書くことができる。 記録物の提出方法、期限が厳守できる。 適切な報告ができる。		
	介護過程（アセスメント）	利用者との関係を築き、必要な情報を収集することができる。 その人らしさを見つけ、個々に合った介護計画が立案できる。		
	介護過程（実践）	介護計画について、チームケアを考慮して実践できる。 介護計画の実践を基に、再アセスメント（評価）し、介護過程のサイクルを理解する。		
	生活支援技術	実践を通して生活支援技術のポイントが理解できる。 利用者の状態に合った技術が実践できる。 安全・安楽や自立支援を意識して実践できる。		
	利用者理解	状況に合わせて様々な方法で関わるすることができる。 利用者の言葉や会話内容を受け止め、自分の気持ちを伝えることができる。		
評価基準 5：大変良い 4：良い 3：普通 2：いま少し 1：努力が必要				
総合所見				
実習指導者氏名	印	総合評価		
		優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可		

(注) 太枠内をすべてご記入下さい。総合評価の基準については別紙をご参照ください。